



## ツバキの実との出会い

～ツバキの実の中身を知り、ツバキ油を取り出す～



### これ、何の実？

お散歩の途中になにやら木に実る実を見つけたうさぎ組さん。「なんかみかんみたい！」と声があがり、1個ずつ取っていく姿がありました。「みかん？」という言葉が出たので、「食べられるのかな？」と、興味津々なうさぎ組さん。保育園に持って帰ってきて、事務所にいる職員に「これなに？」と聞いてみました。「これは、ツバキの実だね。割ったら中に黒いタネが入っているよ。それがツバキ油になるんだよ」と教えてもらいました。それを聞いて、早速丸太を使ってツバキの実を割ってみると、本当に黒いタネが出てきました！！それを見つけた子達は「あつた～！」と大興奮。そして、その黒いタネをまた割ってみると・・・。中に白い実が入っていました。ツバキ油の原料になる白い実

をじーっと観察する姿がありました。自分たちの手で割って、本当に黒いタネとその中の白い実を見ることができ、喜びを感じている子どもたちでした。



### もう一度、ツバキの実を探しに行こう！

『ツバキの白い実から油がとれる』ということを知った子どもたち。前回お休みで、まだ知らないお友達にも教えて、「また取りに行こう！」となり、ワクワクしながらお散歩に出発しました。場所を知っている子どもたちが、「こっちだよ！！」と教えてくれ、ツバキの木の上の方にも実がなっていて、職員に抱っこしてもらいとることができました。目的をもって、お散歩に行くうさぎ組さんはとっても意欲的でした(^\_^)



### ツバキの実が割れてきて・・・

数日後、ツバキの実が少し割れてきました。「割れてきたから中の黒い実を取り出そうか！」と伝えると、「うん！」と子どもたち。指先を使い、集中して中の黒い実を取り出していました。「この黒い実をお日様にあてて、カランカランって音がするまで乾かすんだって！」と保育士が伝えると、黒いタネをふり、「カランカランっていわないね」と子どもたち。数日後も、またツバキの実を取りに行き、そのタネをまた園庭のトンネルの上に置いて数日間乾かしました。



### いよいよ、ツバキ油をつくる！

日に干した黒いツバキのタネが、カランカランに乾いた日。そのタネをハンマーでたたいて、黒い硬い皮を指先でむきました。硬い皮を根気よく集中して剥く子どもたち。頑張ると、「黄色いのとれた！！」という声。やっとなれた油はほんの少しでしたが、この油でタマネギを炒めて、食べることができました(\*^\_^\*)



ツバキの実を発見し、中身がどんなものかを知ったうさぎ組さん。そして、それが油になることを聞いて、実を「集める」「むく」「作る」の一連の作業を何日もかけてしました。実物にふれ、剥いたり触ったり、硬さや色あいなどを感じた生の貴重な体験でした。



## トイレットペーパーの芯で遊ぼう

～遊びが生活の知恵に～



### トイレットペーパーの上に乗せてあそぼう

ひつじ組さんの9月の月刊絵本は、トイレットペーパーの芯のお話で、絵本の内容のように楽しそうな遊びを子どもたちも“やってみたい!!”と声があがり、子どもたちにわき上がった興味を実際に体験しようと思って、9月初めから保護者の方々の協力を得て、芯を集めました。9月下旬、トイレットペーパーの芯は90リットルのゴミ袋いっぱいになり、早速みんなで遊びました！

**本当に乗れるのかな・・・？**まず、一つの芯に自分たちの絵本を1冊のせてみました。真ん中にのせるのが、なかなか難しかったのですが、何度もやって・・・「のったよ～！」と大喜び。その次は4本に増やして、絵本がたくさん乗るかな・・・と試してみると、20冊の絵本を全部のせることができました！！

**人が乗れるの・・・？**次は、たくさんのトイレットペーパーの芯を立てて、上に座れるのかな？とやってみました。足から置こうとすると、倒れてしまい、「どうしょっか」と考える子どもたち。おしりからのってみる？と、職員が抱っこしてのせると、のることができました！「おしりからのらないといけないだね」「本当に力持ちの芯だね！！」と、ギモンが実際に遊んでみたことで納得が繋がりました。



**どれだけの絵本が乗せられるかまたやりたい！！**と、次の日遊んでみました。重たい図鑑ももってきて、「もっと高く積んでみよう！」と子どもたちが挑戦します。でも、途中でぐらぐら・・・してきて倒れないようにと、両手で支える子どもたち。でも、手を離すと倒れてしまいました(´\_`)「どうしてかな？」と聞いてみると、「重たすぎる！」「高すぎるから！」「せんぼうきのかげがふいてるからだ」と子どもたち。「職員がやってみるから見てね！」と積んでみせてみると、全部倒れずに積むことができ、どうして倒れなかったのかな・・・とみんなで考えました。すると、「大きいのを下にする？」と一人の子が言いました。すると、「小さいのは上にする！」と他の子が言いました。高く積み上がった絵本を見て、「大きい絵本を下に、小さい絵本を上積んだら安定して倒れない」と、遊びの中での生の体験が気づきに繋がりと、それを感じ取っているようでした。そのことから、給食で食器を片付ける時に、「(大きい皿が下で、小さい皿が上だと)カタカタしないよ～」という声が出て、遊びが生活の中での知恵となっているのを感じました。



### はじいたり、破ったり

別の日、こんな遊びもやってみました(\*^\_^\*)指ではじいて遠くまで飛ばせるかやってみました。「指ではじく」という動作が難しい子もいましたが、何度も遊んでいるうちにできるようになった子もいました。絵本にはなかった遊びも子どもたちが考え、遊び始めました！芯の上に絵本、また芯を置いて絵本、とタワーのようにしてみたり、芯だけを上に積んでいったり、最後は、芯をビリビリと破ってみたいと思いました。思ったより破くのが難しく、「難しい」「できない」という声が出ました。



9月の月刊絵本をきっかけに、一つのもので、指先を使ったり、集中したり、「どうやったらできるかな」「こうしたらいいんじゃない？」と考えながら、遊びを繰り広げる中、実際にやってみたことで、ギモンが解決し、新たな発見になったり、更にこんな風にもやってみよう、とアイデアも出てきたり、心動かす体験となりました。これからも子どもの心をキャッチし、一緒にワクワクを感じる実体験していきたいです。

ひよこ組の保護者の方からの声 ～絵本への思い～

持ち帰ってきた月刊絵本を家に帰ってから手にとっていた我が子。絵本を読んであげ、「ピュンピュン」と言うと、ジャンプ(屈伸)してみたり、うれしそうに首を振りながら見ていました。次の日も、起きてすぐに絵本を指さし、「読む！」とアピールしたので、絵本を渡すと、手に取り見えていました。自分の！というのが分かり、手に取る姿が多くあるのを見て、『自分の絵本』という特別感はとても大事なことだと感じました。

普段から絵本の時間を大切に、朝の会や帰りの会では、月刊絵本や、季節の絵本、その時に子どもたちへ伝えたい内容の絵本を選んで読んでいます。絵本を広げると自然と集まってくる子ども、絵本の世界をイメージしたり、楽しんだりしながら、豊かな感性をもった子どもを育てていきたいという願いで、9月より月刊絵本を保育の中で活用し、より絵本の世界を楽しめるようにしています。「今日は〇〇ちゃんの絵本を読むね」と一人一人、毎日交代で読めるようにしながら、今日読んでもらえる特別な喜びを感じている子どもたちです。

月刊絵本を一人一人取り上げて見るようになってから、小さい子どもたちも、自分の絵本を理解して要求したり、主張したりしてきているのを感じます。月刊絵本の購入につきまして、ご理解いただき、皆様ありがとうございます。

**10月 行事予定**

- 22日(火) 誕生月お祝い給食
- 26日(土) ドリーム運動会
- 29日(火) 愛情弁当の日

**11月 行事予定**

- 14日(木) 愛情弁当の日
  - 19日(火) 誕生月お祝い給食
  - 20日(水) 内科健診
- ※年長さんは稲刈りを予定しています。